

# 学校経営案と一体化した学校評価による学校改善

札幌市立平岡小学校

## I はじめに

学校改善につながる  
継続的な学校評価

「毎日が参観日」  
「毎日が学校評価」  
の学校づくり

学校改善への  
具体的な取組

### 1 本校における学校評価のねらい

本校では、学校経営方針に基づき保護者・地域との確かな信頼関係を築きながら、教育活動を展開している。また、学校重点目標の具体化に向けて、教職員との共通理解を図るとともに、子どもの育ちの過程を踏まえた年間の評価サイクルを設定し、教育活動の改善につながる学校評価の取組を展開している。今年度の重点目標は、『『底力』の発揮～児童の発揮と保護者・地域・教職員の総合力で子どもたちに「生きる力」を～』である。この経営理念の一つとして、「毎日が参観日」が挙げられている。



朝の読書

本校の学校評価は、学校の教育活動の成果や課題を把握し、教職員の共通理解を図りながら、日々継続的に行っており、年間の評価計画に基づく、いわゆるPDCAのサイクルをより小さく、取組ごとに細かく展開している。また、教職員による評価だけでなく、保護者や地域の方々等の評価も取り入れ、より多様な視点から学校改善を行っている。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

本校では、昨年度の学校評価を受け、以下の通り、改善を進めた。

- (1) 児童の登下校の安全性を確認する「親子登校」「一斉下校」の実施。
- (2) 日課表の見直し

- 週に一度、学校全体で「朝の読書」実施
- 登校後から始業前までの時間の有効活用
- 職員朝会時刻の繰り上げ、並びに簡素化

- (3) 教育ボランティアの学習参画の推進

- 教育ボランティア、G T等を活用した学習の計画

- (4) 縦割り活動の運営を児童委員会の取組に。

- 高学年児童の負担軽減

- (5) 教職員による自己評価項目の精選、及びそれに伴う会議の焦点化。

- (6) 保護者が定期的に学校に足を運べるための、各行事等の回数や時期の設定。

- (7) 個人情報の保護、危機管理の一元化へ向けた児童調査票の改訂、及び管理の徹底。

- (8) 不審者情報等、緊急時の保護者連絡に対応する方策の検討（携帯メール等）。



企業による出前授業

## 5つの「S」

Smile、Speed、Slim  
Service、Safety  
(笑顔、迅速、省力化  
安全安心、貢献奉仕)



学校説明会

以上の改善点について、すぐに始められるものから取り組み、教職員や保護者・地域の願いや危惧に対して、学校としての回答をスピーディーに発信することで、学校評価の意味や価値を互いに実感することができた。また、本校教育活動を運営するにあたって重視する5つの「S」(Smile、Speed、Slim、Service、Safety)を最優先する姿勢を体現できたものといえる。

以下に述べる学校評価の取組全体にも、特に Slim 化を意識し、そのために現場が多忙化することこそが、教育活動の質を下げる最大の要因であることを念頭に置いている。

## II 本校の学校評価システム



### 1 自己評価と評価委員会

校長の学校経営方針と重点をもとに、評価委員会で評価内容や評価項目を設定している。評価委員会として新たな組織の立ち上げはしておらず、校長、教頭、教務主任、総務、各校務分掌の部長で構成される推進会議のメンバーで、他の協議事項同様に審議している。評価の年間計画は、教務主任が中心となって作成し、これに基づき実施方法や会議の持ち方を検討している。

自己評価の客観性を高めるために、教職員評価だけではなく、児童の生活実態調査や保護者アンケートを実施し、集約・分析等を行っている。保護者アンケートについては、毎年一度、教育活動全般に関わる内容で実施しているほか、授業や行事ごとに随時実施してきており、それらの結果も自己評価に反映されるようになっている。

また、教職員評価の評価項目は従来、各部・各取組にわたってこと細かに設定されており、いわゆる「年度末反省」の意識が抜けない面が見られた。そのため、反対意見や批判がなければ書きづらいものであった。この項目を精選することで、「評価」の意図を前面に表すことができ、従来の感覚的な評価や「個人意見」に左右される自己評価からの脱却を図ることができたと考えられる。

### 2 学校関係者評価委員会(拡大学校評議員会)

本校においては、5名の学校評議員に、PTA会長、児童会館館長、まちづくりセンター所長の3名を加えた8名の方々に「拡大学校評議員」として学校関係者評価に参加していただいている。

拡大学校評議員会の中では、児童生活実態調査の結果・保護者アンケートの結果・教職員の自己評価を参考に、さらには学校説明会、授業参観や学校行事の地域保護者公開日に来校していただき、児童や学校、教職員の姿を直に見てもらいながら、自己評価の実施の在り方や評価内容が適切であるかを検討している。

評価書を預けて、それぞれに評価していただく方法もあるが、本校では、年2回、委員が一堂に会する座談会形式でそれぞれの意見や評価を伺っている。それぞれの方が、学校とのかかわり以外に、自らが中心となる組織に所属しており、様々な角度や視点から発せられる見解は、教育活動への新たな風を吹き込んでくれる。

すでに今年度も7月、12月と2回の会合を終えているが、単なる学校評価にとどまらず、「平岡小学校の応援団」としての温かい目を注いでいただいている。



拡大学校評議員会

### Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価				学校関係者評価
	学校（教職員）	児童	保護者	地域	学校関係者評価委員会
4月	職員会議（新年度学校経営方針） 学校評価項目決定 学習参観・懇談、PTA総会 家庭訪問、入学式反省	学力テスト 全学年学力状況調査	学級懇談会 PTA 総会 家庭訪問		
5月	第1回学校説明会の実施 学習参観		学校説明会 運動会アンケート	学校説明会	学校説明会 運動会
6月	運動会反省 学習参観・懇談 第1回学年学級経営交流会 通知表検討（評価規準の確認）		学級懇談会	スクール・ゾーン実 行委員会	
7月	一日学校公開日 拡大学院評議員会 学校評価（中間）自己評価表配付		一日学校公 開日アンケート	一日学校公 開日アンケート	一日学校公開日 第1回拡大学院評議員会
8月	一日学校公開日反省 学校評価集約（成果と課題の整理） 学校評価（中間）改善策の提示・検 討				
9月	改善の具体化 学習参観・懇談 通知表作成・説明・発行		学級懇談会		
10月	児童生活実態調査の実施 学習参観・懇談	児童生活実 態調査	学級懇談会		
11月	学習参観	学習発表会感想カード	学級懇談アンケート	学習発表会 感想カード	学習発表会感想カード
12月	学習発表会反省 保護者アンケートの実施 拡大学院評議員会 学校評価（年度末）自己評価表配付 個人懇談		保護者アンケート 個人懇談		第2回拡大学院評議員会
1月	学校評価集約（成果と課題の整理） 学校評価（年度末）改善策の提示・ 検討				
2月	学習参観・懇談 第2回学校説明会の実施 第2回学年学級経営交流会 職員会議（年度末学校評価） 保護者アンケート結果配付		学級懇談会 学校説明会 新1年生保 護者説明会	学校説明会	学校説明会
3月	卒業式反省 通知表作成・発行 各部新年度方針立案 自己評価及び学校関係者評価の公表		PTA 拡大運 営委員会		学校関係者評価書作 成

## IV 学校評価の方法

### 学校経営案と一体化した学校評価

#### 1 自己評価

##### (1) 項目の設定

本校では今年度、「学校経営案」と「学校評価」の一体化を進めた。

学校経営案にあげられた4指標22の項目（重点目標・授業づくり・生活づくり・環境づくり）を、そのまま自己評価項目として設定した。学校経営案と評価項目を合致させることにより、学校重点目標の具現化を目指す教育課程推進の指標として、全教職員が年間を通して意識していくことになり、教育活動と学校評価のぶれをなくすことにもつながる。また、実際の評価に当たっては、こと細かに反省・評価をするのではなく、項目をより重点化して精選することがスピーディーな学校改善を可能にすると考えている。

なお、教職員の自己評価においては、さらに具体的な改善意見を挙げてもらうことが必要であると考え、自由記述欄を設けている。

##### (2) 児童・保護者アンケートの実施

本校では、教職員の自己評価をより確かなものにするため、10月末に児童生活実態調査を実施し、その結果を自己評価に生かしている。同様に、12月の初旬には保護者アンケートを実施している。その際には、教職員による自己評価と関連させ、重点化した評価項目を設定し、より互いがリンクし合うよう配慮している。ただ、両調査ともにすでに数年前より継続して実施しており、経年比較の必要上、すべての項目を教職員の自己評価とリンクさせるには、今後検討が求められる。

##### (3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

児童生活実態調査や保護者アンケートの結果については、担任が集計した。教務が項目ごとに統計処理を行い、前年度との比較や考察を加えた。

調査からは児童の育ちや課題、保護者の教育活動への期待や改善状況を把握した。また、調査結果は、学校改善の達成状況を把握する基礎資料として活用した。

教職員の自己評価は教務が集約した後、推進会議（評価委員会）において分析し、各部により検討される。

自己評価書は、次年度の改善具体案を盛り込んだ3段階評価（◎十分に達成 ○おおむね達成 △課題あり）で作成している。

##### (4) 改善策の検討

教職員の自己評価の結果から、「△課題あり」の評価が多い項目や、自由記述欄に記載された改善策については、教務による見解を加えた上で、推進会議（評価委員会）において検討し、各々の評価項目に該当する課題を各部が分担し、次年度に向けた改善策を策定する。さらに職員会議において次年度の方向性を明確にし、校長による次年度の重点目標策定に資する。

また、保護者アンケートの自由記述欄に記載された改善意見については、自己評価に十分反映されるようにするとともに、学校便りや学校説明会の中で学校としての回答をスピーディーに発している。

#### 2 学校関係者評価

##### (1) 学校関係者評価委員（拡大学校評議員会）の構成と役割

本年度は学校評議員（5名）、現PTA会長、児童会館館長、まちづくりセンター所長の計8名で構成した。各調査結果や教職員の自己評価を資料に、教頭・総務が司会、説明、記録を担当しながら、意見をいただく形で会議を進めている。

##### (2) 学校関係者評価書の作成

会議での意見、改善策を整理し、学校関係者評価書に記載して、各委員に最終確認をいただいた上で評価書を作成する。

## V 評価結果の公表

公表方法の多様化とスピーディーな取組



平岡小学校HP

### 1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校ホームページ  
…トップページに「学校評価」を掲載したことをお知らせし、リンクをはり、評価書をPDF化したデータを掲載する。
- ・学校説明会（5月・2月）  
…児童生活実態調査や保護者アンケートの結果や次年度に向けた改善策について説明する。
- ・学校便り  
…保護者アンケートの結果を記載するとともに、自由記述として寄せられた意見については回答と改善策を載せる。家庭数で配付するほかに、地域や関係者にも配付している。

### 2 公表の効果

保護者・地域に対して、学校の取組や姿勢についての理解を促進できた。公表そのものの効果というより、寄せられた声に対して、回答・改善できるものに対してスピーディーに取り組み、ともに学校を創っているという意識を高めてきたことの成果であると感じる。その結果、学校の行事や学習の取組に対して、協力の手をさしのべていただける方も増えてきている。

## VI 成果と課題

学校評価は「目的」でなく、学校改善のための「手段」である

### 1 成果

学校経営案との一体化を図った学校評価の各項目・指標の設定により、1年間の教育活動における重点的な取組の方向性がより明確になり、それを進めていく教職員の共通認識を深めることにつながった。

また、これまでは年度末に重きを置いてきた学校評価の取組であったが、今年度は、中間評価や年度途中の時期でも可能な限り改善してきた。年度の重点にかかわる取組であれば、むしろ年度中に改善することに価値があることも見出せた。これは同時に、過重になる年度末の業務を分散させる意味合いをも含んでいる。

さらに、話し合いを幾度も繰り返してきた、これまでの「年度末反省」形式から脱却し、学校改善の本質にかかわる項目・指標に絞り込んだことで、「学校評価」という取組の本来の在り方を見出すことができた。

様々な業務が錯綜する学校現場において、学校評価という取組がさらなる多忙化をもたらすのでは、その趣旨である学校改善からは、かえって遠ざかるばかりである。本校は、この取組により逆に多忙化を解消することが、学校改善に結びつくと考えた。学校評価をスリム化したことによる成果は、錯綜する業務の整理・精選・重点化にまで及んでいる。

### 2 課題

学校評価と一体化されたことにより、新年度の学校経営案の重要度はさらに増す。その内容によって評価項目も連動して決定していくことになるが、前年度の評価を受け、変更すべきものと継続すべきものを洗い出すことが、これまで以上に必要になる。

また、特に教職員は、自己評価を過小評価する傾向があったことを踏まえ、自身の努力や児童の育ちについても、自信をもって評価すべく意識改革が必要である。

本校では、学校便りやホームページなどで、自己評価および学校関係者評価の実施やその結果を公表することとしているが、どのような形で公表することが正確に理解を得られるものなのか今後検証を重ねていきたい。

「課題」が次年度の具体的な取組の方針に

1 本年度の重点目標

『底力』の発揮！～児童の発揮と保護者・地域・教職員の総合力で子供たちに「生きる力」を～

2 本年度の経営方針

底力の発揮

- ①授業づくり…学び合い・主張ある授業とチームワークの研究を通して子供たちに「学ぶ力」を
- ②生活づくり…人間関係づくり、元気な挨拶等で子供たちに確かな態度＝「生活習慣づくり」を
- ③環境づくり…環境整備、交流教育、読書習慣、三つの「あ」等との相互作用で子供たちに優しい「心」を

3 評価項目

分野	評価項目	評価内容（◎十分に達成 ○おおむね達成 △課題あり）	
		達成状況	改善の方策
重点目標	児童の知識・経験を生かした授業等での力の発揮		
	教職員の発揮（よさ・特技・趣味・持ち味・個性）		
	保護者・地域住民等の協力を生かした力の発揮		
	五つの「S」（笑顔・迅速・省力化・安全安心・貢献）		
	「毎日が参観日」開かれた学校の意識の徹底		
授業づくり	全教職員のチームワーク（協働体制）		
	体験的・問題解決的な学習の構築		
	四つの「学ぶ力」の育成、基礎基本の定着		
	「学び方」の育成（話し方・聞き方・ノート・鉛筆）		
	授業研究のチームワーク～主張と学び合いの授業		
生活づくり	指導法の工夫と改善（TT、ALT等）で確かな学力		
	保護者・地域・GT協力型の学習		
	三つの「あ」（挨拶・遊び・歩き方）の指導・啓発		
	学校危機管理の指導の徹底		
	「生命と安全」意識啓発・「予見」＝日常安全点検の確立		
環境づくり	「いじめ・不登校」等への対応		
	学びの支援委員会（必要に応じた）での情報交流		
	日常的な子供との語らいの場（懇談）の設定		
	地域行事への参加啓発		
	地域・保護者のゲストティーチャー登録		
環境づくり	学習環境整備と充実（校内外の環境リニューアル）		
	読書習慣の確立による「心」の育ち		

平成20年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成21年3月 日  
札幌市立平岡小学校

1 本年度の重点目標

『底力』の発揮！～児童の発揮と保護者・地域・教職員の総合力で子供たちに「生きる力」を～

2 本年度の経営方針

底力の発揮

- ①授業づくり…学び合い・主張ある授業とチームワークの研究を通して子供たちに「学ぶ力」を  
 ②生活づくり…人間関係づくり、元気な挨拶等で子供たちに確かな態度＝「生活習慣づくり」を  
 ③環境づくり…環境整備、交流教育、読書習慣、三つの「あ」等との相互作用で子供たちに優しい「心」を

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価 評価内容(0十分に達成 0未満は達成 Δ課題あり)		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善案の適切さ
重点目標	児童の知識・経験を生かした授業等での力の発揮				
	教職員の発揮(よさ・特技・趣味・持ち味・個性)				
	保護者・地域住民等の協力を生かした力の発揮				
	五つの「S」(笑顔・迅速・省力化・安全安心・貢献)				
	「毎日が参観日」開かれた学校の意識の徹底				
	全教職員のチームワーク(協働体制)				
学校関係者評価者による意見					
授業づくり	体験的・問題解決的な学習の構築				
	四つの「学ぶ力」の育成、基礎基本の定着				
	「学び方」の育成(話し方・読解力・ノート・整理)				
	授業研究のチームワーク～主張と学び合いの授業				
	指導法の工夫と改善(TT、ALT等)で確かな学力 保護者・地域・GT協力型の学習				
学校関係者評価者による意見					
生活づくり	三つの「あ」(挨拶・遊び・歩き方)の指導・啓発				
	学校危機管理の指導の徹底				
	「生命と安全」意識啓発・「予見」=日常安全点検の確立				
	「いじめ・不登校」等への対応				
	学びの支援委員会(必要に応じた)での情報交流 日常的な子供との語らいの場(懇談)の設定				
学校関係者評価者による意見					
環境づくり	地域行事への参加啓発				
	地域・保護者のゲストティーチャー登録				
	学習環境整備と充実(校内外の環境リニューアル)				
	読書習慣の確立による「心」の育ち				
学校関係者評価者による意見					

学校評価〈資料3〉【児童生活実態調査】

平岡小学校のみなさんへのアンケート

この調査は、みなさんが、学校や家庭で、どのような気持ちで、生活しているかを質問するものです。そして、みなさんが、今後より楽しく学校や家庭で過ごすには、どうしたらよいかを考えるために使われます。テストではありませんので、みなさんが思ったとおりのままを答えてください。

( )年 おとこ・おんな ○を付けてください。

	聞きたいこと	すごく	どちらかと	どちらかと	そう	わからない
		そう思う	いえば	いえば	思わない	い
1	学校が好きだ。					
2	勉強が好きだ。					
3	勉強すれば、ふだんの生活や社会に出て役立つと思う。					
4	学校の勉強がどのくらいわかりますか。					
	よくわかる	だいたいわかる	わかることと	わからない	ほとんど	

学校評価〈資料4〉【保護者アンケート】

平岡小 よりよい学校づくりの保護者アンケート

お子さんの学年：1・2・3・4・5・6年

A(すごく思う)、B(思う)、C(あまり思わない)、D(わからない)

	NO	お聞きすること	A	B	C	D
重点目標	1	自分の子供は、毎日楽しく学校に通っている。				
	2	学校での取組や教育方針が、学校だよりやホームページ、懇談会、学校説明会等を通してわかりやすく伝えられていると思う。				
	3	学校は、授業参観や行事等を通して、教育活動や教育情報を積極的に公開していると思う。				
	4	学校は、保護者や地域の願いに応えていると思う。				
授業づくり	5	自分の子供は、学校の授業が楽しくわかりやすいと言っている。				
	6	通知表は、子供の学習の様子や生活の様子がわかりやすく工夫され、評価されていると思う。				
	7	複数の先生で算数の学習を行うTT指導は、子供たちの学力の向上に役立っていると思う。				
生活づくり・環境づくり	8	平岡小学校の子供たちは、進んであいさつができていると思う。				
	9	自分の子供は、友達と仲良く過ごしている。				
	10	自分の子供は、運動会や学習発表会、うめっ子活動等の行事を楽しみにし、積極的に参加している。				
	11	学校は、子供の安全を守るための取組が十分になされていると思う。				
	12	かぜの子学級と通常学級が共に学ぶことは、子供たちの心を育てていると思う。				